

「平成 28 年（2016 年）熊本地震」における 真宗大谷派ボランティア活動綱領

2016 年 5 月 30 日現在

●ボランティア活動の前に

震災直後のような、瓦礫の間を進み、重い食材や燃料を担いで運ぶような状況は回避されました。そのため、高齢者や体力に自信のない方も、ボランティア活動に参加することが可能です。

ご存知のとおり、被災地でのボランティア活動は、ボランティア本人の自発的な意思と責任により参加し、行動することが基本となります。

●リスクヘッジ（危険回避）について

事前に各自の責任において、お住いの市町村の社会福祉協議会等で「ボランティア活動保険」に加入手続きをすませてください。

●宗派におけるボランティア

震災直後は、何よりもまず飲料水や食料・生活必需品の確保が最重要課題でした。しかし、時間の経過とともに、求められる支援は変化してまいります。

宗派では、今回の災害に際し、①本堂等の寺院建物及び門徒宅の片付けや清掃、②寺院や避難所への物資搬送、左記①②を伴う各種ボランティアを募集いたします。

ボランティアをしていただく寺院については、熊本教務所（現地救援本部）にてご紹介いたします。

なお、宿泊・道中の移動手段・必要物品の手配・食事・保険加入等はボランティア個々において手配いただくことを基本とさせていただきます。

＝宿泊施設について＝

ボランティアで現地に入られる際は、宿泊所を各自で手配いただくか、4 月 26 日（火）から 6 月 30 日（木）までの間、九州大谷短期大学（福岡県筑後市）の学寮にて宿泊いただくことが可能となります。宿泊を希望される際は、必ず熊本教務所へ事前にご連絡ください。

熊本教務所（現地災害救援本部） 連絡先：096-324-0608

※宿泊施設の許容人数を超える場合は、ボランティア個々に宿泊を手配いただくことになります。

※7 月 1 日以降の宿泊施設については、改めてお知らせいたします。

●支援活動のいろいろ（自治体等のボランティア）

地震、噴火、津波、河川の氾濫、豪雪など災害の種類等によって活動内容が異なる場合もありますが、主な活動は次のとおりです。

- (1) 被災者の住居の片付け、敷地内や住居内の汚泥の除去
- (2) 避難所でのお手伝い(食事のお世話、救援物資の配付など)
- (3) 救援物資の仕分け(衣料、飲料、食料品、衛生用品などに分ける作業)
- (4) 災害ボランティアセンターの運営のお手伝いなど

詳しくは、被災地の災害ボランティアセンターのホームページ等でご確認ください。

●ボランティア活動の心得

ボランティア活動の心得としては、「無理な活動はしない」、「相手の立場に立って考える」、「約束や秘密は守る」などなど、ボランティアに関する様々な団体等のホームページに掲載されていますので、活動前にご確認ください。

「被災地」であるということを心の片隅に置き、「思いやり」と「謙虚さ」、この二つを常に意識しながら活動いただければと思います。

また、ボランティアを継続して行っていただくためにも無理をせず、自立したボランティア活動を目指していただき、活動の中で個々の知識やノウハウとともに大切な心得を身につけていただきたいと思います。

なお、活動中の写真撮影及びSNS等での発信は、被災された方への配慮と了解が必要となりますので、十分にご留意ください。

●服 装

「動きやすい服装」で結構です。団体名や名前が分かるよう名札をつけたり、養生テープなどに名前を書いて服に貼って活動してください。

以 上